

国語科 学習指導案

平成21年10月5日～10月23日

4年生対象

指導者 長期研修員 佐藤多佳子

1 目指す言語能力

場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。【C読むこと (ウ)】

2 単元名 「くらべて読もう」

教材： 光村図書4年下 「一つの花」 今西 祐行・作

3 指導の目標・指導計画・評価計画 (全10時間)

題	くらべて読もう「一つの花」				
目標	時代背景や登場人物の行動・様子などについて、場面の変化に注意しながら読み、題名「一つの花」が象徴することを考え、自分としての解釈をもつ。				
評価基準	<p>【関心・意欲・態度】 単元の学習への見通しをもち、課題を追究していこうとする。</p> <p>【読む能力】 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちや状況の変化について、叙述に着目したり、叙述と叙述を関連付けたりしながら想像している。</p> <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 言葉には、登場人物の考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて、登場人物の言葉や行動や行動と気持ちとを関連付けている。</p>				
過程	時間	ねらい	学習活動	支援及び留意点	
つかむ	1	全文を読んで、これからの学習への意欲をもつことができる。	作品と出会い、単元の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文を読む前に、題名に着目させて、作品のイメージをもたせる。 ○ 「一つの花」についての簡単な感想を書くようにしたり、今西祐行の他の作品を紹介したりすることで、これからの学習への意欲をもたせる。 	【関・意・態】物語と出会い、学習のめあてを立てている。
	2	物語の設定（登場人物、中心人物）や視点を理解する。	物語文を読み、登場人物、中心人物、視点を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ アニメーション的な活動を取り入れることで、意欲的に考えさせるようにする。 ○ 初めて出会う三人称客観視点の物語なので、その効果について挿絵を使って分かりやすく説明する。 	【読】時、場所、登場人物、中心人物、視点を理解している。
	3	大きく二つの場面からできているという構造を理解する。	時の設定に着目して、作品の構造を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ アニメーション的な活動を取り入れることで、意欲的に考えさせるようにする。 ○ 作品構造を理解させ、作品の全体像をとらえさせる。 	【読】大きく二つの場面からできているという構造を理解している。
	4	二つの場面を比べて読むという、単元の学習の見通しをもつ。	「二つの場面の、どちらのゆみ子の方が幸せか」という課題を話し合	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「二つの場面の、どちらのゆみ子の方が幸せか」という課題について話し合わせる中で、比べる観点（ゆみ子、時代、食べ物、お父さん、コスモス、コスモスの花の五つ）に気付かせる。 	【関・意・態】場面を比べて読むという単元の学習の見通しを

		い、比べる観点を 見付ける。	○ 比べながら読み深めていく必要性をもたせ、単元の学習への見通しがもてるようにする。	もっている。	
追 究 す る	5	ゆみ子の人物像と、戦争中という時代背景について理解することができる。	ゆみ子の人物像を考えながら、戦争中という時代背景をとらえる。	○ 「ゆみ子はわがままか」という発問をすることで、児童の思考をゆさぶる。 ○ ゆみ子に着目しながら戦争中という時代背景を理解し、「一つだけ」というキーワードのもつ意味を考えられるようにする。	【読】ゆみ子の人物像と、戦争中という時代背景について理解している。
	6	お父さんの思いを、時代背景とつなげて理解する。	お父さんの言動を中心に読み、お父さんのゆみ子への思いを考える。	○ お父さんの会話文に着目してお父さんの思いを想像させることで、お父さんがゆみ子にどんな子に育ってほしいと思っているのか考えさせる。 ○ お父さんの行動（高い高い）に着目させ、時代背景と関連付けながら、お父さんの言葉にならない思いを考えさせる。	【読】お父さんの思いを時代背景につなげて理解している。
	7	「一つの花」に込められた、お父さんの思いを考えることができる。	題名にもなっている「一つの花」の意味を、お父さんの思いとつなげて考える。	○ コスモスの花が咲いていた位置を絵で確認することで、具体的なイメージをもたせる。 ○ プラットホームのはしっぽに置かれたコスモスの花と、戦争中の時代に端の方に追いやられていたことを対応させることで、一つの花が象徴していることを考えられるようにする。	【読】「一つの花」に込められたお父さんの思いを考えている。
ま と め	8	「一つの花」に込められたお父さんの思いを、お母さんの視点を借りて表現することができる。	お父さんの思いを、十年後のゆみ子に教えてあげる、お母さんの物語文を書く（戦争中の場面）。	○ 第7時で学習したお父さんの思いを、十年後のゆみ子に教えてあげられるのはだれか、話し合いながら考え、お父さんの思いを引き継いでゆみ子を育ててきたのはお母さんであることに気付かせる。 ○ 「一つの花」に込められたお父さんの思いということを中心に、場面の構成や会話文を入れるなど、書く観点を与えて書けるようにする。	【読】「一つの花」に込められたお父さんの思いを、お母さんの視点を借りて自分の言葉で表現している。
	9	お父さんの思いが十年後も生き続けていることを、お母さんの視点を借りて表現することができる。	お父さんの思いを、十年後のゆみ子に教えてあげる、お母さんの物語文を書く。（十年後の場面）。	○ 前時に書いた物語文を交流し、作品の内容や表現の工夫を共有する。 ○ 児童の表現のよさを書く観点に加えて示し、十年後の場面に生き続けているお父さんの思いを物語文に書けるようにする。 ○ 書いた物語に、内容に合う題名を付けさせることで、題名のもつ意味を再度考えさせる。	【読】お父さんの思いが十年後も生き続けていることを、お母さんの視点を借りて自分の言葉で表現している。
	10	書いた物語を交流し、友達や自分の成果を評価できる。	書いた物語を読み合い、友達の表現のよさを評価し合う。	○ 交流の観点（書くときの観点を活かす）を示し、焦点を絞った評価になるようにする。 ○ 少人数（3人組）での活動にすることにより、安心して発表できるようにする。また、班のメンバーを入れ替えて、いろいろな友達の物語を聞けるようにする。 ○ 「比べて読んだことで分かったこと」を中心に、「一つの花」の感想を簡単に書かせ、学習の成果を明確にする。	【読】書いた物語を友達と読み合い、友達や自分の作品のよさを評価し合っている。

4 本時の学習くつかむ過程> 第1時(1/10)

(1) 本時のねらい

全文を読んで、これからの学習への意欲をもつことができる。

(2) 展開

(○おおむね満足、☆十分満足)

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目(方法)
つ か む	1 作品と出会う ○ 「一つの花」という題名からわかること、想像できることを交流する。	5	○ 今までに読んだ物語文(「モチモチの木」や「白いぼうし」)を想起させ、題名の役割に気付かせるとともに、「一つの花」の場合はどんな内容が書かれているのかイメージをもたせる。	
追 究 す る	2 「一つの花」全文の読み聞かせを聞き、簡単な感想を書く。 3 作者、今西祐行さんについてや、今西さんの他の作品について知る。	30	○ 読み聞かせの後に、簡単な感想を書くことを伝えておき、聞くときの観点をもたせる。 <聞くときの観点> ・心が動いたところ(楽しい、嬉しい、悲しい、面白い、辛い、寂しい…) ・疑問点(分からない、不思議、変だ…) ○ 事前に、今西祐行の作品や戦争に関する図書を用意しておき、学級文庫のコーナーを作っておく。	
振 り 返 る	4 「学習の手引き」で単元の学習内容を知る。	10	○ 学習の見通しをもたせるとともに、音読、意味調べ、漢字練習、関連図書の多読は毎日自主学習で継続させることの大切さを知らせる。	【関・意・態】 ○ 物語と出会い、学習のめあてを立てている。(ワークシート)

※難語句の意味調べは宿題

※新出漢字は、前倒しで学習済み

4 本時の学習くつかむ過程＞ 第2時（2/10）

(1) 本時のねらい

物語の設定（登場人物、中心人物）や視点を理解する。

(2) 展開

(○おおむね満足、☆十分満足)

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目（方法）
つかむ	1 全文を音読する。	10	○ 集中して音読に取り組めるように、一斉読み、交代読み、句読点読みなど、多様な音読方法で活動させる。	
	2 本時の学習課題をつかむ。			
だれの言葉？（登場人物、中心人物、視点を理解する）				
追究する	3 アニメーション的な活動「だれの言葉？」をする。		○ 「だれの言葉？」で取り上げる文は、つぎの五つである。	
	4 登場人物、中心人物を確かめる。		○ 「一つだけちょうだい。」 ○ 「なんてかわいそうな子でしょうね。一つだけちょうだいといえば、なんでももらえると思っているのね。」 ○ そんなとき、お父さんは、決まってゆみ子をめちゃくちゃに高い高いするのでした。 ○ 「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。一つだけのお花、大事にするんだよー。」 ○ 今日は日曜日、ゆみ子が小さなお母さんになって、お昼を作る日です。	
振返る	5 だれの「視点」から書かれているか考える。		○ 上の文を短冊で用意して提示し、だれの言葉かを当てるゲームをする。会話文でないものについては、「もし劇をするならだれが読むか？」と問うことで、「語り手」の存在に気付かせる。 ○ 中心人物については、「白いぼうし」など既習の物語文を振り返らせて中心人物の定義（気持ちがよく描かれている人、お話の最初と最後とで気持ちが一番変わる人・・・など、これまでの学習に応じて）を確認する。しかし、「一つの花」は、中心人物が特定しにくいので、新たな定義、「最初の一文と最後の一文に出てくる人」を付け足し、「ゆみ子」であることを確認する。	【読む能力】 ○ 登場人物、中心人物、視点について考え、理解している。（発表、ワークシート）
	6 今日の振り返りを、ワークシート（ノート）に書く。	5	○ 既習教材「三つのお願い」「白いぼうし」を想起させ、「視点」をとらえておくと、視点人物の気持ちがよく分かるというきまりを確認しておく。 ○ 「一つの花」は、児童が初めて出会う「三人称客観視点」の物語なので、語り手がだれの心にも寄り添わず、その場に居合わせた目撃者のような立場から語っていることを確認する。登場人物の挿絵や、視点を分かりやすくする大きな「目」の絵などを用意し、視覚的に分かりやすく教える。 ○ 登場人物、中心人物、語り手、視点など、本時で学んだことをワークシートにまとめる。	
振返る	6 今日の振り返りを、ワークシート（ノート）に書く。	5	○ 本時で学んだことを板書で分かりやすくまとめておき、児童が学習を振り返る手だてとする。	

4 本時の学習くつかむ過程 > 第3時 (3/10)

(1) 本時のねらい

大きく二つの場面からできているという構造を理解する。

(2) 展開

(○おおむね満足、☆十分満足)

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目 (方法)
つかむ	1 全文を音読する。	10	○ 集中して音読に取り組めるように、一斉読み、交代読み、句読点読みなど、多様な音読方法で活動させる。	
	2 本時のめあてをつかむ。			
	だれの言葉？ (物語の構造をとらえる)			
追究する	3 アニメーション的な手法を取り入れた学習ゲーム「どんな順番？」をする。	30	○ 「だれの言葉？」で取り上げた時と同じ文に3枚付け足し、順番を入れ替えて示す。 ○ 「どんな順番？」で取り上げる文は、つぎの8つである。構造がとらえられるように文を選んだ。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「一つだけちょうだい。」 ・「なんてかわいそうな子でしょうね。一つだけちょうだいといえば、なんでももらえんと思ってるのね。」 ・そんなとき、お父さんは、決まってゆみ子をめちゃくちゃに高い高いするのでした。 ・それから間もなく、あまりじょうぶでないゆみ子のお父さんも、戦争に行かなければならない日がやって来ました。 ・「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。一つだけのお花、大事にするんだようー。」 ・お父さんは、それを見てにっこり笑うと、何も言わずに、汽車に乗って行ってしまいました。ゆみ子のにぎっている、一つの花を見つめながらー。 ・でも、今、ゆみ子のとんとんぶきの小さな家は、コスモスの花でいっぱい包まれています。 ・今日は日曜日、ゆみ子が小さなお母さんになって、お昼を作る日です。 			
	① 正しい順番に並べる。		○ 二人組で協力しながら、楽しく取り組みさせる。	【読む能力】 ○ 戦争中と十年後という二つの場面からできていることを理解する。(発表、ワークシート)
	② 大きく二つの場面に分けられるところはどこか考え、作品の構造を確認する。		○ 大きく二つの場面に分けられるところはどこか考えさせ、その根拠を言わせることで、この物語は「戦争中」と「十年後」との二つの場面からできているという作品の構造を理解させる。	
振り返る	4 今日の振り返りをワークシートに書く。	5	○ 本時の学習を振り返るとともに、場面についての既有知識を思い出せるようにする。	

4 本時の学習くつかむ過程 > 第4時 (4/10)

(1) 本時のねらい

二つの場面を比べて読むという、単元の学習の見通しをもつ。

(2) 展開

(○おおむね満足、☆十分満足)

過程	学 習 活 動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目 (方法)
つ か む	1 本時のめあてをつかむ。		○ 2つの場面から構成されているという前時の学習を振り返り、どちらの場面のゆみ子の方が幸せかと問いかける。	
	戦争中と十年後、どちらのゆみ子の方が幸せか			
	2 全文を音読する。	10	○ 集中して音読に取り組めるように、一斉読み、交代読み、句読点読みなど、多様な音読方法で活動させる。	
追 究 す	3 課題「どちらのゆみ子の方が幸せか」についての考えを交流する ① 自分の考えをワークシートに書く。 ② 三人の班でそれぞれの考えを交流する。 ③ 全体交流をする。		<p style="text-align: center;"><予想される児童の反応></p> <p>○戦争中の方が幸せ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お父さんと一緒に家族がみんなそろって暮らしているから。 <p>○十年後の方が幸せ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物があるから。 ・戦争が終わって、平和になったから。 ・お母さんと二人で仲良く暮らしているから。 ・コスモスの花に包まれて暮らしているから。 	
考 る	4 場面の変化について考えるために、比べる観点を明確にする。	30	○ 児童から出された比べる観点(ゆみ子、時代、食べ物、お父さん、コスモスの花)を黒板に書き、視覚的に分かりやすくする。 ○ 「両方の立場に別れてしまうので、はっきりさせるためにもっと詳しく読もう」という新たなめあてをもたせ、場面を比べながら読んでいくというこれからの学習の見通しをもたせる。	【関・意・態】 ○ 場面をくらべる観点を明確にし、学習の見通しをもっている。(ワークシート)
振 り 返 る	5 今日の振り返りを、ワークシートに書く。	5	○ 話し合いを通して、自分の気付かなかった意見や新しく考えたことがあれば書くように伝える。	

4 本時の学習<追究する過程> 第5時(5/10)

(1) 本時のねらい

ゆみ子の人物像と、戦争中という時代背景について理解することができる。

(2) 展開

(○おおむね満足、☆十分満足)

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目(方法)
つかむ	1 本時のめあてをつかむ 二つの場面のゆみ子をくらべて読もう	10	○ 二つの場面のゆみ子の様子を比べて、変化を自由に発表させ、本時の学習内容への意欲を高める。	
	2 最初の場面(冒頭～P. 6、3行目)を音読する。		○ 音読させるときには、ゆみ子の様子がよく分かるところに注意をしながら読むよう声をかける。	
追究する	3 冒頭の一文に着目させ、自分と比べて考える。	30	○ 物語文のキーワードになっている「一つだけ」という言葉に着目させ、「一つだけちょうだい。」と言って、他人の食べ物も食べてしまうゆみ子に着目させる。 ○ 家の人にインタビューしてきた宿題の書き込みを基にそれぞれの児童の最初に覚えた言葉を話題にすることで、「一つだけちょうだい」という言葉の異質性に着目させる。	
	戦争中のゆみ子は、わがままでしょうか			
	4 「一つだけちょうだい」と言うゆみ子はわがままなのか考える。 ① 自分の意見をワークシートに書く。 ② 三人の班でそれぞれの考えを交流する。 ③ 全体交流をする。		○ 『「一つだけちょうだい。」と言って食べ物をほしがるゆみ子は、わがままでしょうか。』という発問をして、児童の考えを揺さぶる。 ○ 文章の叙述を根拠にして意見をもつように声を掛ける。	
<p><予想される児童の反応> 「わがまま」 ・ お母さんの分も食べてしまうから。 ・ 「一つだけ。一つだけ。」と言って、みんな食べてしまうから。 「わがままではない」 ・ 戦争中で、おまんじゅうだの、キャラメルだの、チョコレートだの、そんな物はどこへ行ってもなかったから。 ・ 戦争中で、食べる物といえば、お米の代わりに配給される、おいもや豆やかぼちゃしかなかったから。 ・ 言葉をはっきりと覚えられないくらい小さい子どもだから、おなかですいても我慢できないのは仕方ない。 ・ 「ゆみ子はいつもおなかをすかせていたのでしょうか」と書いてあり、いつもおなかをすかせているのは我慢ができないから仕方ない。</p>				
	5 戦争中の様子が分かるその他の叙述も見付ける。		○ 次の叙述にも着目させ、戦争中のイメージを広げる。 ・ 毎日、てきの飛行機が飛んできて、ばくだんを落としていきました。 ・ 町は、次々に焼かれて、はいになっていきました。 ○ 戦争中という時代背景の物語であることを確認し、ゆみ子の言動の異質性を理解させる。	【読む能力】 ○ 叙述を基に、ゆみ子の人物像と時代背景を理解している。 ☆ 叙述を基に、ゆみ子の人物像と時代背景を関連付けて理解している。(発表、ワークシート)
振り返る	6 今日の振り返りをワークシートに書く。	5	○ 「戦争中のゆみ子はわがままか」に対する授業後の考えを書かせることで、自分の考えの深まりを実感させる。	

4 本時の学習<追究する過程> 第6時(6/10)

(1) 本時のねらい

お父さんの思いを、時代背景とつなげて理解することができる。

(2) 展開

(○おおむね満足、☆十分満足)

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目(方法)
つかむ	1 本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">二つの場面のお父さんをくらべて読もう</div>	5	○ 二つの場面のお父さんについて、自由に意見を言わせ、本時の学習内容を理解させる。	
追究する	2 十年後の場面を音読する 3 戦争中の場面で、特にお父さんの長い会話文のある二の場面を音読する。	10	○ 十年後のお父さんはいないのか、叙述を基に考える。その中で、「でも」に着目させ、お父さんとコスモスの花との関係について次時に向けて意識させておく。 ○ 音読させるときには、お父さんの様子がよく分かるところに注意をしながら読むよう声をかける。 ○ 「普通の高い高い」と、「お父さんの高い高い」との違いを、イメージで自由に発表する。 (「普通の高い高い」は、楽しい、嬉しいイメージ。「お父さんの高い高い」は、あまり楽しそうでない。どうしてだろう?)	
	4 お父さんがゆみ子に高い高いをしているときの思いを考える。	30		
	お父さんがゆみ子をめちゃくちゃに高い高いするのは、なぜでしょう			
			○ 意見の根拠を重視して話し合う中から、お父さんの言葉や表情に着目させる。 ○ お父さんの会話文の中から、ゆみ子がこの先どんな子になってしまうことを不安に思っているのか、ゆみ子にどんな子になってほしいと思っているのか考える。	【読む能力】 ○ 父の言動を基に、ゆみ子への思いを考えることができる。 ☆ 父の言動と時代背景とを関連付けながら、父親のゆみ子への思いを考えることができる。 (発表、ワークシート)
振り返る	5 今日の振り返りを、ワークシートに書く。	5	○ 児童から出された意見を、焦点化して明確に板書し、振り返りをワークシートに書く時に、共有した内容が活かされるようにする。	

4 本時の学習<追究する過程> 第7時(7/10)

(1) 本時のねらい

一つの花に込められた、お父さんの思いを考えることができる。

(2) 展開

(○おおむね満足、☆十分満足)

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目(方法)
つかむ	1 本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">二つの場面のコスモスの花をくらべて読もう</div>	10	○ 第4時で学習したことを基に、戦争中と十年後のコスモスの変化を確認する。また、コスモスが出てこない場面も取り上げ、今までの学習を振り返る。 ○ コスモスの花が、「0→1→いっぱい」と変化した意味を考えていくことを告げる。	
	2 お父さんが戦争に行く日の場面を読む。 ① 音読する(三人組、一文交代読み) ② コスモスについての記述で線を引いたところを発表し合い、ワークシートにまとめる。 ③ 別れの場面でお父さんがどこを見つめているか確かめる。	30	○ 音読しながら、コスモスについて書いてあるところに線を引く(課題解決の手がかりになりそうなところ)。 ○ コスモスについての記述で、線を引いた箇所を確認しながら黒板にまとめることで、情報を整理して示す。 ○ 別れの場面でお父さんがどこを見つめているかに着目させることで、一輪のコスモスの花には、お父さんの特別な思いが込められていることを確認し、中心発問を提示する。	
一輪のコスモスの花にこめられたお父さんの思いは何でしょうか?				
追究する	④ 課題についての、自分の考えを、ワークシートに記入する。 ⑤ 自分の考えを、三人組で話し合った後で、全体で交流をする。		○ 叙述を根拠に考えるよう指示する。特に、黒板にまとめた情報を手がかりにすると分かりやすいことを伝える。 ○ 自分の考えの根拠も書くように指示する。 ○ 全体交流の時には、児童同士の相互氏名をさせ、教師は児童の意見のポイントを整理しながら板書する。	
	<p><予想される児童の反応></p> <p>○平和な世の中になってほしいという思い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆみ子が、もう二度と食べ物がない辛い思いをしないようにという願い ・ゆみ子が「一つだけちょうだい」としか言えないから、たくさんちょうだいと言わせてあげたい <p>○ゆみ子に幸せになってほしいという思い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幸せになってほしい。 ・喜びが花のように増えて行ってほしい <p>○ゆみ子の成長への思い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちゃんとした子になってほしい、いい子になってほしい ・優しい子になってほしい ・元気な子になってほしい ・ゴミ捨て場のような所に咲いていたから、忘れられないように、元気に咲いてほしい ・コスモスのように、忘れられてもがんばって、この花のように強く生きて行ってほしいという思い ・コスモスの花が、忘れられても育っていたので、ゆみ子にもコスモスのように頑張って生きてほしいという願い。 			

- たった一つの命を大切にしてほしいという思い
- ・お父さんの分まで、ゆみ子に生きてほしい
- ・家族が無事でいられますように
- ・その場に一つしかない一つの花だから、大事にしてほしいという思い
- その他
- ・お父さんのことを覚えていてほしい (忘れないでほしい)

○ 意見を発表した後で、自分と違う意見でなるほどと思ったことを発表させることで、多様な意見を共有化する。

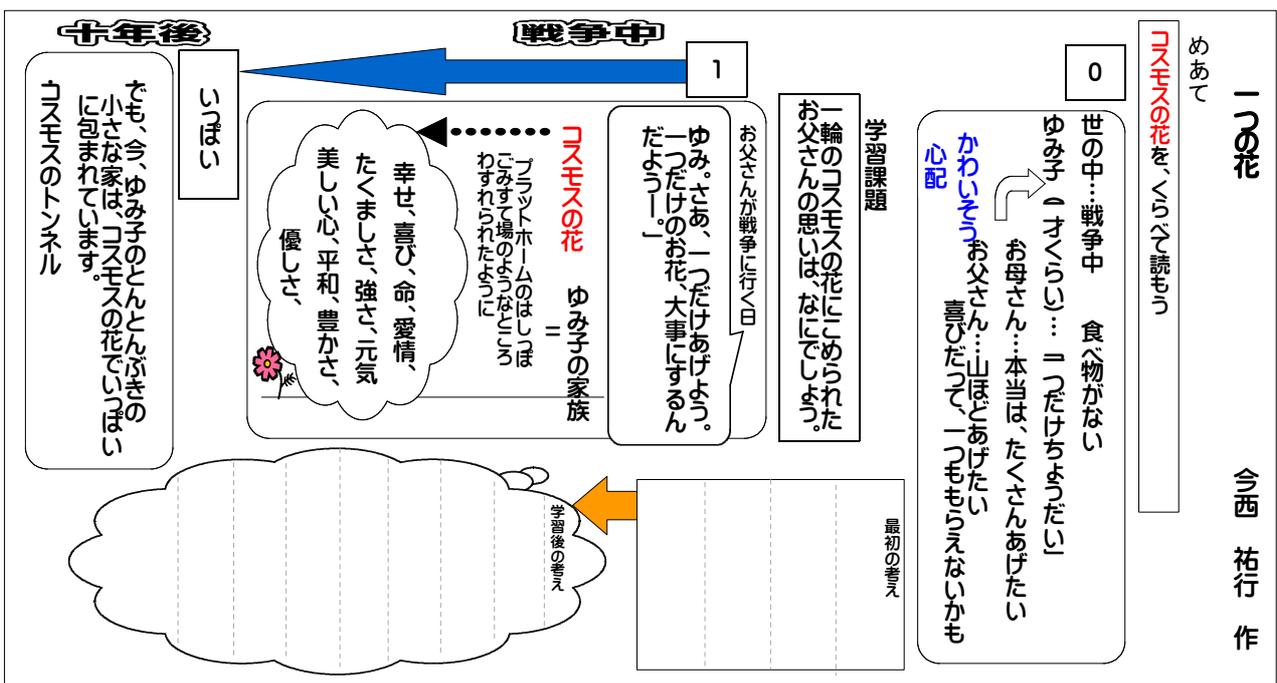
<交流が深まらなかったときの補助発問>
 「一輪のコスモスの花は、どこに咲いていたでしょうか」
 ・位置関係がはっきりするように、黒板にプラットホームとコスモスの絵を描きながら確認する。
 「プラットホームを、戦争中の世の中に置き換えると、戦争中にはしっぽに追いやられていたことは何でしょうか」
 ・戦争中の世の中を表すイメージ語 (てきの飛行機、ばくだん、町はつぎつぎに焼かれてはいになる、お米の代わりに配給される、おいもや豆やかぼちゃしかない、軍歌、ばんざい) を確認し、そんな世の中で忘れられていたも、はしっぽに追いやられていたことは何かを考える。
 ・戦争中に忘れ去られた物とお父さんが大事にしたかったことを結び付けられるようにする。

【読む能力】
 ○ 叙述を基に、お父さんが一つの花に込めた思いを想像している。
 ☆ 友達の意見のよさに気づき、自分の考えに取り入れながら、お父さんが一つの花に込めた思いを想像している。(発表、ワークシート)

3 コスモスの花にこめられたお父さんの思いを、お父さんの心の中の言葉で、ワークシートに書く (本時の学習のまとめ)。

5 ○ 交流を通して深まった自分の考えを、お父さんの心の中の言葉として表現させることで、次時の活動に活かせるようにする。
 ○ 多様な意見の情報を黒板に残しておくことで、自分の考えをさらに深められるようにする。

(4) 板書計画



4 本時の学習くまとめる過程> 第8時(8/10)

(1) 本時のねらい

一つの花に込められたお父さんの思いを、お母さんの視点を借りて表現することができる。

(2) 展開

(○おおむね満足、☆十分満足)

過程	学 習 活 動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目(方法)
つ か む	1 本時のめあてをつかむ	10	○ お父さんの願いを、ゆみ子に伝えてあげられる人は誰かな?と問いかけ、今まで読んで解釈してきたことを、お母さんの視点から振り返るようにする。 ○ 別れの場面で、お父さんの願いを、お母さんはどう受け止めたのか話し合い、児童の発想の豊かさを賞賛することで、児童が物語を書く意欲をもてるようにする。	
お父さんの思いを、お母さんからゆみ子に教えてあげる物語文を書こう(戦争中の場面)				
追 究 す る	2 戦争中の場面の書き換えをする。 ① 音読をする ② 視点の統一をする。 ③ 物語文の冒頭に、作品の設定(いつ、どこで、誰が)を書く。 ④ 前時(第7時)に書いたお父さんの願いを、お父さんの言葉として会話文にして、物語の書き換えに取り入れる。 ⑤ 書き換えた物語文を読み返し、示した条件を満たしているか確認する。	30	○ 児童が、書く条件を無理なく理解できるように、少しずつ提示する。 ○ 戦争中、十年後の二つの場面に分けて書けるように、二時間に分けて書き換えをさせる。 ○ 視点の統一については、「手紙風」(お母さんの一人称視点)と「作者風」(今西祐行さんと同じ三人称客観視点)という分かりやすい言葉で示し、児童が理解しやすくする。また、書き進める中で視点が統一しなくなる可能性も高いので、その時には個別に支援する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"><児童に示した書く条件> ◇冒頭に、作品の設定を書く ◇お父さんの思いを、会話文にして書く ◇視点を統一する(手紙風・作者風)</div>	【読む能力】 ○ お父さんが「一つの花」に込めた思いを、お母さんの目から物語文に書くことができる。 ☆ お父さんが「一つの花」に込めた思いを、表現の工夫を取り入れながら物語文に書くことができる。 (書き換えた物語文)
振 り 返 る	3 物語文の書き換えができた児童から、友達と作品を見せ合う。	5	○ 書くときに示した条件を観点にして交流させることで、自分が書いた物語文を振り返ったり推敲したりするきっかけとする。	

4 本時の学習くまとめる過程＞ 第10時（9／10）

(1) 本時のねらい

お父さんの思いが十年後でも生き続けていることを、お母さんの視点を借りて表現することができる。

(2) 展開

(○おおむね満足、☆十分満足)

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目（方法）
つかむ	1 本時のめあてをつかむ	5	○ 前時の学習を想起させ、お母さんの視点から十年後の場面を振り返るという本時の課題を伝える。	
	お父さんの思いを、お母さんからゆみ子に教えてあげる物語文を書こう（十年後の場面）			
追究する	2 前時に書いた、戦争中の書き換えを班で読み合い、友達の作品の内容や表現のよさを発表する。 3 十年後の場面の書き換えをする。 ① 音読をする ② お母さんの視点から、十年後の場面を意味付ける物語の書き換えをする。	30	○ 児童から出された気付きは、「いい物語文」を書くためのポイントとして紹介し、必須ではないが書く時の工夫として条件に取り入れる。 ＜予想される児童の反応＞ ○たとえの表現を使う（比喻） ○書き出しの工夫をする（会話文から書き始めるなど） ○詳しくする言葉を使う ○ 「お父さんがもしいたら、十年後の場面のゆみ子のどんな様子に一番喜ぶだろう？」と問いかけ、文章に戻って、ゆみ子の具体的な姿に着目できるようにする。 ○ 前時に意味付けたお父さんの思いと、コスモスの花がいっぱいになったことを関連付けられるように、言葉を掛ける。 ○ 書く事柄が抽象的になってしまう場合も考えられるので、児童の様子次第で交流の場を設け、叙述に戻って考えられるようにする。 ○ 書いた物語に、内容に合う題名を付けさせることで、題名のもつ意味を再度考えさせる。	【読む能力】 ○ お父さんが「一つの花」に込めた思いを、お母さんの目から物語文に書くことができる。 ☆ お父さんが「一つの花」に込めた思いを、表現の工夫を取り入れながら物語文に書くことができる。
振り返る	4 物語文の書き換えができた児童から、友達と作品を見せ合う。	5	○ 書くときに示した条件を観点にして交流させることで、自分が書いた物語文を振り返ったり推敲したりするきっかけとする。	（書き換えた物語文）

4 本時の学習＜まとめる過程＞ 第10時（10／10）

(1) 本時のねらい

書いた物語文を交流し、友達や自分の成果を評価できる。

(2) 展開

(○おおむね満足、☆十分満足)

過程	学 習 活 動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目（方法）
つかむ	1 本時のめあてをつかむ	5		
	自分の書いた物語文を発表し合おう！			
追究	2 三人組で発表し合う。	30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少人数での活動にすることにより、安心して発表できるようにする。 ○ 発表を聞くときのポイントを板書で示し、どんな観点で交流したらよいかを明確にする。なお、交流の観点は、書くときの観点と同じとする。 	<p>【読む能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作品のよさについて、観点を基に考えて伝えている。（発表、ワークシート）
	<p style="text-align: center;">＜交流の観点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ お父さんの思いを友達はどうとらえているか ○ 視点が、手紙風か作者風に統一されている。 ○ 表現の工夫がある。（比喩、行動描写、会話文、書き出し） 			
3 班の友達の作品のいいところを、ワークシートに書く。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 班のメンバーを入れ替えて、いろいろな友達の物語を聞けるようにする。 ○ お互いのよさを口頭で伝え合った後、ワークシートに簡単にメモさせて記録が残るようにする。 ○ 数名の児童に全体の前で発表させることで、児童の「発表したい」という意欲を賞賛する。 		
4 全体での発表をする				
振り返る	5 今日の学習を振り返り、感想をワークシートに書く。	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達や自分のよさについて書けるよう、もう一度交流の観点に着目させる。 	